

長官

第十五號

造船所設置等ノ義ニ付上申

北海道航海者ノ安全ヲ要スル為メ當使管下ニ於テ自
今五百石積以上ノ船舶日本形新製差止西洋形ニ製造
為致度旨明治八年甲第三十四号同濟ノ意ニ基キ膽振
國室蘭港ニ造船所設置可致ノ蒙差向西洋形風帆船製
造志願ノ者有之時ハ東京英横濱賀等ニ於テ製造為致
候上願人、下渡可申就テハ別紙第貳号ノ通本支廳
等、相連第廿五号ノ通管内布達致候條此段上申候也

明治三十二年二月十八日

開拓長官黒田清隆

太政大臣三條實美殿

上申ノ類傳主ノ事

明治十一年三月十一日

太政大臣

三條

宗義



第貳号

本 支 廳

東京出張所

明治八年甲第三十四号布達ノ意ニ基キ進テ造船所設置可致候得共差向人民志願ノモノハ東京及ヒ横浜賀等ニテ西洋形風帆船製造為致候上本人ハ可下渡仍テ願請條例相定乙第五号ヲ以テ布達候ニ付右事務取扱手續左ノ通候條此旨區戸長等ハ之可相達事

明治十二年二月十九日 開拓長官黒田清隆

造船願請事務取扱手續

第一條 人民造船ヲ願出ル時ハ區戸長ニ於テ其願人
平常ノ家産願面ノ船舶ヲ維持スルニ堪
ユルコトヲ
確認シタルエニテ與書スヘキ

第二條 區戸長ノ與書シタル願書ヲ人民ヨリ差出シ
テ其願面ノ廳ニ於テハ其一通ニ聞届タル旨ヲ朱書
シテ本入ヘ下付シ一通ヲ留置一通ニ添書ヲ作り
東京出張所ヘ可相運事

第三條 東京出張所ニ於テハ其造船願面ニ據リ横須
賀及東京ノ内造船營業ノ者ハ托シ畧圖英ニ社様
書ヲ以テ木材釘類等ヨリ組立ニ至ル迄ノ諸費經
算ヲ豫定セシメ精審査ノ上注文スヘシト決シタ

ル時其管廳へ詳細移報スヘシ

第四條 其管廳ニ於テハ計算書ヲ願人ヘ示シ造船願請條例第三條ニ據リ造船費總額十分一ヲ出サシメ便宜ヲ以テ東京出張所へ差廻シ且船舶落成及ヒ請取ノ期限等其願人ヘ示シ置ヘキ

第五條 東京出張所ニ於テハ其總費額十分一ノ金負查收シタル上ハ速ニ造船營業者ヘ注文シ木材釘類ノ品位落成ノ年月代金受渡ノ期限等詳細証書取置ヘキ事

但在東京造船營業者ヘ注文セシ時ハ官負時々造船場へ出張監視スヘシ

第六條 船舶落成スレバ試航ノ上東京出張所ニテ請取リ並テ示シ置タル期限通り出京シタル請取人

造船願請條例ヲ履行シタルヲ認メシ上相渡スヘシ若シ函館ニテ請取タキ素願ノ者ハ別ニ函館迄回航ノ現費上納セシム可キ

但函館ニテ相渡ス時ハ諸上納金等函館支廳ニテ查收シ便宜ヲ以テ東京出張所へ差廻スヘキ

第七條 其管廳ニ於テハ造船年賦上納金額等期限ノ通取立便宜ヲ以テ東京出張所へ差送ルヘキ

第八條 東京出張所ニ於テハ造船諸費一時操替仕拂置追テ其管廳ヨリ戻入ノ上決算致スヘキ

第九條 總テ造船願請ニ關スル件ハ造船願請條例並ニ當事務取扱手續ニ據リ震分致スヘキハ勿論ト雖モ實際施行ノ後其得失等ニ就キ意見アルモノハ事情ヲ具シテ伺出ヘキ

乙第五号

航路安全ヲ要スル為メ船舶五百石積以上ノ新製ハ自
今必ス西洋形ニ製造可致進テ造船所設置ノ上造船費
貸典等ノ規則可相定旨明治八年第四号ヲ以布達致シ
置候處差向人民情願ノ向ハ東京及横須賀等ニ於テ
製造為致候上該船可下渡就ラハ願請條例別冊ノ通相
定候條此旨布達候事

明治十一年二月十五日

開拓長官黒田清隆

造船願請條例

北海道沿海航路危險加之從來船製粗脆是故之往々
難破ノ患アリ人民ノ死亡物貨ノ沈没亦尠カラス仍
テ令般人民物貨ノ安全ヲ要シ航路運輸ノ便利ヲ資
ケシガ為メ管下在籍人民ニ限リ西洋形造船願請ヲ
許可シ備分ノ内風
船ノミトス其條例ヲ定ム左ノ如シ

第一條

西洋形船新製志願ノ者ハ左ノ第壹号書式ニ照準シ願
書三通ヲ作り區戸長ノ與書ヲ得管轄廳へ願出ヘキ
事

第二條

船ノ形体及ヒ積石ノ多寡ハ願主ノ隨意タルヘシト雖
凡造船ノ定法ニ乖戾スルヲ許サス

第三條

造船着手ノ節代價總額十分一ヲ納メ其残額ハ船請取
ノ前日皆納スヘキ

但一時ニ辨納致シ難キモノハ貳ケ年乃至三ケ年
ノ年賦上納ヲ許可スヘシ

第四條

船舶落成ノ上ハ製造セシ場所ニ於テ相渡ス可キニ付
魚ヲ示シ置タル期限通り請取人出頭スヘシ若シ函館
ニテ請取タキ素願ノ者ハ函館ニテノ回航現費上納ス
ヘキ

但請取ノ降願人審査ノ上申分無之旨ヲ記載セル請
取證書差出スヘキ

第五條

年賦上納ノ者ハ身元慥ナル者貳名以上ノ證人ヲ立テ
第二号書式ニ照準シタル證書ヲ作リ船請取ノ前日皆
帳廳ニ差出スヘシ

第六條

年賦上納ノ者ト雖モ初年相當ノ金額
假令ハ造船一切ノ費額萬圓千圓ヲニケ年賦トスル時ハ費額ノ内十分ノ一ハ船請取ノ前日必ス上納スヘシ
残金高ハ壹ケ年ハ米百圓ニ付
割ノノ利子ヲ加フヘキ

但船請取ノ翌月ヨリ起算シ滿十二ケ月ニ至ル毎ニ
壹ケ年分ノ元利ヲ上納スヘシ

第七條

年賦金上納未済中天災ニ罹リ該船覆没等ノ丁アルモ
其残額ハ上納ス可シ然リト雖モ情實無餘儀分ハ船主

ノ迷惑無之様詮議致スヘキ

但乘組ノ不注意或ハ粗忽ヨリ致セシ覆没等ナレハ
他ニ抵當ヲ出サレノ其残額上納セシム可シ

第八條

年賦金上納未済中該船ノ修繕ハ船主ノ自辨タルヘシ
右修繕ヲ口實トシ年賦延期等額出ルモ一切許可不致
事

第九條

年賦金上納致リ、ル時ハ該船引揚ケ投票ヲ以賣却シ
其代金元利ニ不足スルモ本人ニ於テ上納難致時ハ其
證人ヨリ上納為致若シ餘金アラハ下付スヘシ

第十條

造船着手後若シ願主ノ情願ニ依リ其製造ヲ止ムル事

アル時ハ當初ノ納金收没スヘシ

第十一條

願請ノ船舶年賦上納未タ相濟マサル内ト雖モ其持主
ノ情願ニ依リ他ニ賣渡スルアル時ハ當使管内人民ニ
限リ之ヲ許可スヘシ

但本文ノ場合ニ於テハ別紙第三号書式ニ照シ願書
三通ヲ認メ其管轄廳ニ差出シ許可ノ上ハ其買受人
ヨリ第四号書式ノ證書ヲ同廳ニ差出スヘシ若シ買
受人賣渡人ト管轄異ナル時ハ其廳ヘモ届出ヘシ

開 採 係

第壹号書式

造船ノ義願

一西洋形風帆船

噸数

右ハ私營業ノ為ノ運輸ノ用ニ供シ度候間製造被成下

度費額ノ義ハ（造船願請條例第三條ニ據リ）此度上納可仕ハ勿

論聊カ條例ニ違背不仕且ソ一般ノ御規則堅ク相守リ

可申ニ付御許容被成下度尤落成ノ上ハ製造ノ場所ニ

於テ相請取申度此段奉願候也

何國何區何番地

年号月日

願人

族

苗字名印

開 採 係

證人 族苗字名印

印

何廳官姓名嚴

夜ハ

羊賦
証人
納
下
毛

身元

慥ナル者

三
付願ノ通御牌癩

相成度候也

何國何區之長

年
月
日

畚字名印

同
戸長

笛字名印

第貳号書式

證書

印紙

一金也

肉

金何程來何年何月上納分

金

[illegible]

造船願請條例第六條ニ據リ
三々年職ヲ以元利共此度

上納可仕若シ上納相滞候節ハ條例第九條ニ據リ御要

不被成下度万一該舩覆没候歟又ハ他ノ厄難ニ罹リ上

納難仕候時ハ証人引請_テ辨償仕聊_カ御損失相掛申間

數候為後日証書如伴

年月日

何國何區何番地

族苗字名印

何國何區何番地

證人 族苗字名印

證人 族 印

何廳官姓名殿

前書之通相違無之候也

同國同區々長

年月日

苗字名印

同 戸長

苗字名印

第三號書式

願請船賣渡買受ノ義願

一西洋形船(噸數船名)

右ハ製造代價金何程 貳ヶ年 三ヶ年 賦上納ヲ以年月日何某

願請ケ未納金何程有之候處今般熟談ノ上何某買受度

付テハ未納金額ノ分ハ(何某 買受)ヨリ條例ノ通此度上

細可仕且一般ノ御規則等堅ク相守リ可申候條右賣渡

買受ノ義御許容被成下度此段奉願候也

何國何區何番地

年月日

賣渡人

族苗字名印

買受人

族苗字名印

何廳官姓名殿

前書之通相違無之候也

何國何區々長

年月日

苗字名印

同

戸長

苗字名印

若し買請人賣主ト住所ノ區異ナル時ハ其區
戸長連署スヘシ

第四号書式

印紙

證書

一金
也

内

金何程
當何年何月上納分

金

右何誰願請西洋形船(噸數船名)製造代價年賦上納未
済金高前書之通候處今般熟談ノ上詠船買受候ニ付私
ヨリ屹度上納可仕若シ上納相滞候節ハ條例第九條ニ
據リ御處分被成下度萬一私ニ於テ上納難仕節ハ證人
引請テ辨償仕聊カ御損失相掛申間敷候為後日證書如
件

年月日

何國何區何番地

族 苗字名印

何國何區何番地

證人 族 苗字名印

證人 族 印

何廳官姓名殿

前書之通相違無之候也

同國同區々長

年月日

苗字名印

同 戶長

苗字名印

書記官

七等屬豐田繁調

記録課

乙卯十六号

官員着京ノ義御居

札幌在勤准陸軍中尉荒城重雄義御用有之
昨十八日出京致候條此殿御届仕候也

明治十二年二月十九日

開拓長官黒田清隆

太政大臣三條實美殿